

# しるばあくらぶ

第8号

SILVER CLUB Office : B-4 L-12 Ph 5BB, Cristobal St. Gatchalian, Subd., Las pinas City TEL:820-3140

☆☆

## 3月懇親会の模様

その1

3月18日(土) 6:00pm~8:00pm レストラン福松。  
 ◇今回は、懇親会の席で3月8日に実施したゴルフトーナメントの表彰が行われる事になっていたので会場は既に5時過ぎから活気づいていた。参加者全員分の賞品がドサッと持ち込まれ、その整理と配列。スコア表貼付、表彰式のスペース確保、テーブル配置など、張り合いのある忙しさに追われていた。

◇会場正面に並べた賞品の山を見ただけで華やかな気分になる。ゴルフ大会の帰り道、河村氏の車に乗り合わせた人達に「6千足らずで18名分の賞品を揃えるのですがどんな物を希望しますか」と聞いた。「奥さんや子供が喜ぶものでいいよ。我々は笑顔でゴルフに送り出してくれればそれでいいんだから」。こんな会話があってこの度の賞品が準備されました。



優勝者：中島氏。優勝カップと賞品の電化製品



第2位：石山氏。不振が続いたが今回はまずまず

◇会場は6時前に満員になっていた。会長！、定刻だし始めたいと思うのですが・・・「そうして下さい」。先ずのどを潤し、一話し咲かせ、それから表彰式という流れで行きたいのですが・・・「そうして下さい」。表彰式の際は小林さんに大会長として賞品を渡す役をお願いしようと思いましたが・・・「そうして下さい」。

◇門田理事に「乾杯」の音頭お願いします。前もって約束できていたようにサッと応じてくれるのが気持ちいい。思わず同氏の定位置「最下位」脱出を祈った。満員の会場は話しが盛り上がるのに時間を要しない。表彰式では順位の他に各賞も豊富で勝ち負けに関係なく満足して頂いたようで、拍手と歓声で進行した。



ベストグロ：赤坂氏。第4位+ニアピン賞と欲張り



当日賞：カワムラデス？、本人になりきって井上氏

## 3月懇親会の模様

## その2

3月18日(土) 6:00pm~8:30pm. レストラン福松  
 ◇毎月23名ほどの出席者で、それでも結構混み合うが、この日は定刻6時には早々と満席になった。「楽しみは先になるほど大きくなる」。と3月8日行われたトーナメントの表彰式、10日間楽しみを持続させこの日を迎えたので出席者の出足の良さは納得できる。更に開会後も遅れて来られる方があり最終的には29名もの出席数になった。観光バスよろしく補助椅子まで持ち出して肌すり寄せる感覚の超満員になり、それだけお互いの間隔も話しも近くに感じ、賑やかで盛り上がりのある懇親会でした。

◇今月のお知らせおよび共通の議題。

その1、岡田氏の経営する「東京リンクメディカルヘルスセンター」。シルバー会員にディスカウント。  
 その2、ID(会員証・身分証明書)の作成について。  
 その3、新らしく入会された安藤氏の結婚式の話。

◇今月の出席者(アイウエオ順)

赤坂氏、天野氏、安藤氏、石山氏、伊藤氏、井上氏、入江氏、岡 氏、岡田氏、片瀬氏、片山氏、金井氏、岸川氏、小林氏、塩見氏、下川氏、鈴木氏、関根氏、曹 氏、田村氏、中島氏、中原氏、畑 氏、松田氏、光畑氏、桃田氏、森 氏、門田氏、山口氏。29名。



話しも気になるし、表彰式の方も気になるし



第1位から18位、その他各賞合わせて28点

## 会員さん紹介

○岸川 遵さん(在比歴1年+派遣勤務3年) ◇出生:1935年 ◇出身地:佐賀県



◇名前は岸川遵。難しそうな字を書きますが「つよし」と読みます。子供の頃中国で育ちました。昭和21年、引き揚げて来たのですが当然のことその頃の日本は大変な状態でした。故郷の佐賀県に戻り小学校5年から中学高校卒業まで

地元の学校に通い佐賀で暮らしていました。少なからず佐賀藩の気風が身に付いているかも知れません。  
 ◇その後、東京で一通り大学生生活を体験しました。昭和34年、卒業と同時に「大手商社・ニチメン」に勤務。ちょうど東京オリンピック目指して日本は高度成長に向かって発展真っ最中、そんな時代です。海外進出も盛んになり始めた昭和42年、アメリカ駐在員として渡米。シカゴを拠点に各地で活動しました。今時を経てあの頃を懐かしく思い出されます。  
 ◇大手商社とかアメリカ駐在員などと言えば他人様から「堅ブツ人間」と思われているかも知れませんが実はその通りなんです。イエ！、実は全然そうじゃないんです。それは追々分かって戴けると思います。  
 ◇フィリピンとの関わりは、アメリカ勤務8年目の1980年から3年、一時フィリピンに派遣勤務と

なったのが始まりです。ニノイアキノ・エアポート珍しい好きの私は胸を張って空港に降り立ちました。初めての印象は、マーケットが小さいと思ったこと。それと何故か日本人が威張っているような気がしたことです。私はどちらかというと混沌とした所が好きなのでこの国が合っていたようで結構楽しく過ごさせて頂きました。1983年再びアメリカ勤務となって、2002年に現地で定年退職を迎えました。  
 ◇フィリピンに住むことになったいきさつは、娘がアメリカの会社から派遣駐在員としてフィリピンに来たことです。娘はすっかりここが気に入り、是非こちらに移り住むようアドバイスを受け2005年移住してきました。シカゴは寒いので、暖かなこの国は過ごし易く生活面での苦労話は特にありません。外国暮らしが長かったのであまり苦労を感じません。当初カード被害に遭いまして3度送ったクレジットカード3回とも途中で盗まれましたが会社側が保証してくれました。娘はアメリカに帰りましたが家内と二人してフィリピン生活をエンジョイしています。リタイアメントとしてもしお役に立てる事があれば協力しようと思っています。趣味は読書。シルバークラブでは皆さん良い方達で楽しくやっています。

## 園麿さんの氣遣い

入江則昭

兄は私より九歳年上。その兄が七十一歳の時、お客さんと商談の最中に突然脳溢血に襲われ、意識不明になってしまいました。この病気の治療は一刻を争います。十分もたない間に病院に担ぎ込まれ、話によると心臓を一時冷蔵庫に保管しておいて体の各部から使える血管を取り出し、最新鋭の医学の力により奇跡的に命が救われました。また手術までの時間が短かったため、よく襲われる後遺症も全くなかったという経験をしています。

客先の迅速な処置により、素晴らしい幸運に恵まれたわけです。ただ、その後、血管と心臓が馴染むまでかなり長期間の苦しい闘病生活を送りました。その兄が社内誌にこういう文を載せていました。

あの世に行って園麿さんに会ってきました。そのとき、園麿さんと次のような話しをしてきました。「今、娑婆から一通のファックスが入ってきてね。入江というのがそちらに行っているらしいが、何もかも放っておいて突然行ってしまったのでまわりの人が皆困っている。早急もう一度こちらに帰るように言ってくれないかということだ。どうする？」→

読む気がしなくなるような硬い本です。私は今まで先輩、同僚が自費出版した本を何冊か頂きましたが残念ながら最後まで読んだ本はありません。しかし、兄から送られてきたこの本ほど読まなかった本もありません。読んだのは最初の一頁だけ。二頁目からもうぎっしり数式が並び、しかも私が不得意とする偏微分方程式が至る所に出てきて正直閉口しました。その兄も、脳溢血以降、自分の経営していた会社を息子に譲り、往時の元気が回復しないままに今度はガンが発病し、入院生活を送るようになりました。私がフィリピンに引っ越ししてから、日本にいる娘が時々、情報をながしてくれていました。ある時、「この頃お兄さんの病状は大変良いようです。最近病院を退院して自宅で本を書かれておられるようです。実は中国でオリンピックまでに完成すると、中国新

「私は別に希望してここに来たのではありません。娑婆に帰ることには全く意義はありません。しかし、帰ったとしてこれからどれ位いられるのですか?」「うーん、そうだな。まあ常識では、今までの一割、七年くらいかな。」「いや、それは短いですね、もう少し何とかありませんか。」「いやいや、あなたも知ってるようにまわりにはいろいろ言うのがいて、そう簡単にはいかんのだよ。しかしこれもお前さんの心がけ次第だ。これからのやり方によっては数年は何とかなるんじゃないかな。」「

こういう次第で、あの世から今戻ってきました。兄は、この約束を大幅に延ばしてそれから11年後、八十二歳で、もう一度あの世に旅立っていきました。平静十五年七月のことでした。その旅立つ数ヶ月前、園麿さんが気を遣ったとしか思えない事件がありました。兄は大学を卒業後、国鉄に入社し、新幹線の開発チームに参加しました。主にブレーキ関係にタッチしていたようです。新幹線が目的通り成功して、数年たってその研究の結果を一冊の本に纏めました。「交流電気機関車の諸問題」題を見ただけでもう

幹線の計画があるようでお兄さんの研究についていろいろな質問が来て、それに答えるために文章をまとめておられるようです。と知らせて来ました。人間生き甲斐を感じると病気で治ってしまうという話しを何回か聞いたことがあるがこれはいまいくとガンが治ってしまうのじゃないか。私は一つの期待を持ちました。しかしその仕事が終わり、再び病院に戻ってしばらくして他界の連絡を受け取りました。よく考えると中国新幹線の結論まで兄の体がとても持たないと心配した園麿さんが、あの世に行く前に、もう一度兄の気持ちを奮い立たせるためにわざわざそういう情報を伝えたのではなかったでしょうか。園麿さんというとは何か怖い印象が残っていますが、人間一人一人にそれぞれあれだけの心遣いをするのは大変な事だなあと改めて感心しました。

### ☆ シルバークラブ会員としてテレビ出演 ☆

3月17日(金)6:00pm~8:00pm ウィンズテレビ。先に、シルバークラブ会長としてテレビ出演依頼を受けていた石山会長ですが、このほどマカティ市内サンロレンソヴィレッジのウィンズチャンネルTVスタジオでビデオ収録を行いました。番組タイトルは小林副会長の出演時と同じ「曼茶羅ナイト2」。設定はクラブ「まんだら亭」におけるお客さんとマスターの会話で、シルバークラブの話題から始まり石山会長のプライベートに関する話しへ移行。特にこの1月、蜂の大群に襲われて入院したニュースはここでも話題になり、マスターから「蜂」に因んでエイトマンの称号まで与えられ、話に花を咲かせた。



クラブまんだら亭のスタッフと会話する石山会長

## タイハイ君のひとり言

森泰平

さて、いつも楽しくシルバークラブに参加させて頂いています。皆さん知識と経験が豊富でとても楽しい勉強・食事会と思います。配布された広報紙は全て目を通して見ました。それで今回はそのお礼にと私も少し書いてみました。先月の入江氏のレポート「日本人から見たフィリピン人」悪いことは言わず良い点だけ列挙という限定でしたが、私も以前から感じていることがあります。私の場合多少皮肉や逆説的な点もありますが不都合な所は飛ばして下さい。

## \*\*\* 私の見たフィリピンのよいところ \*\*\*

- ◇6年間ジープを利用しているが運賃不払いの客を見たことがない。釣り銭の足りない運転手はいる。
- ◇日本なら殺人事件が起きるような運転マナーでも周囲のドライバーも乗客も皆許し合い見逃し合う。

- ◇肥満とか成人病が問題になっているがこの国では食べる事が幸せのパロメーター。全然気にしない。
- ◇街に公衆トイレがないので不快に思わず書きを見ることもなく破損する心配もなく衛生的である。
- ◇流しでゴムぞうりや靴を洗い、料理包丁で花壇の花や木を切り缶切りにもまで応用する便利で合理的。
- ◇バスやジープで移動中、故障・事故などあっても運転手同士助け合う。乗り換えさせ乗車賃も返す。
- ◇食後にビールを飲んで運転しても構わない。事故を起こすのは本人の責任である。独立独行の精神。
- ◇一つのお皿に盛り合せて手で食べる。ハンカチやチリ紙など持ち歩かず、資源の節約に努めている。
- ◇洗濯ものが半日で乾くのでサッパリとして衛生的。(30数項目の中から無難なものを抜粋。編集部)。

## ボクの履歴書(5) ここは何処、私は誰?

山口陽一

例えば、成田空港のロビーにはたくさんの外人がいる。そしてハッキリ「外国人」と判る顔をした人達がそれぞれの国の言葉で喋っている。それはごく当たり前の光景であり、何の疑問も不自然さも感じさせないことだと思うのだが・・・ある時、キャセイパシフィック航空で札幌からマニラに来た事がある。途中、香港で少し待ち時間があつたので自分は空港ロビーの椅子に腰掛けていた。周りには溢れる程の人がいた。けれどそこには欧米人の姿は見あらず、詳細に見たわけではないが日本人のような顔をした人ばかりだった。初めは何気なく座っていたのだけれど多勢の人の中ですることなく一人ぼんやりしていると眠気がさしてきて頭がボーとなり始めた。それとは逆に今まで私の頭上を飛び交っていた話し声が、聴く気もなく、気にもとめていなかったのに次第に大きく耳に響いて来始めた。その時になって気がついたのだが何と、聞き覚えのある言葉が全くないじゃないですか。確か日本人のような顔をした人ばかりと思っていたのに、世間知らずの自分は、

一寸見ただけで日本人と、中国人・韓国人・台湾人・香港人などが区別出来なかったのです。従って心の準備が出来ていない状態で、日本人だと思っていた人達の意味不明な日本語?(本当は立派な外国語)を聴いているうちに「オレ、頭オカシクなったンとチャウカ」と思ったり、ヘーンな世界に迷い込んでしまったような感覚に囚われました。香港に来ている日本人は沢山いるはずなのですが、旅行慣れした日本人達はロビーなんかで待たず時間ギリギリまでどこかで遊んでいるのだろうか。待合室にいるのは中国・韓国などの団体さんばかりだったようです。それにしてもホント紛らわしい!(心の準備の都合もあるので、外国語を話す人達はハッキリ外国人と分かる顔をしていれば良いものを)などと飛んでもない自分勝手なことを考えてしまいました。また、それと同時に「外国人」といえば「欧米人」というイメージが強い私、考え方が古いと言えはいいのか視野が狭いと言えはいいのか、小さな自分をそこに見る思いがした香港空港ロビーでのひとときでした。

## ☆ 囲碁・将棋同好会だより ☆

2006年1月に発足したばかりですが、時たま会った者が実施する程度で、まだ活発な活動は行われていません。場所的に離れているので簡単に集まれないことと、夜は更に難しいのがその理由です。私達の年代として同好者は結構おられるはずなので親睦の一環として各人で連絡をとりあってご自由に利用してください。日曜以外はオープンしています。将棋に関して、ご希望の方には日本将棋連盟フィリピン支部長平岡照夫氏(カビテ在住)をご紹介致します。また毎月第1・第3土曜日の午前、日本人会ゲーム室において日本人学校の子供将棋教室を当会会員が指導しています。出来ればお手伝いください。



私はネー将棋出来ないんです。と見学の石山会長

☆☆ ホームページのご案内 ☆☆ ページアドレス : <http://blog.livedoor.jp/fukumatsu/?blog.id=1420951>